

文化財番号 22 「会津三十三観音」

如法寺鳥追観音 会津三十三観音番外 会津ころり三観音の一

当山は、奈良より来たりて、仏都会津の祖となった法相宗僧・徳一大師が、1200年前の平安初期、大同2年（807）「会津西方浄土」として開創されました。

その時、記念植樹された高野槇は東北最大で、県天然記念物となっています。

現観音堂は、慶長16年（1611）の大地震で倒壊後、会津藩家老・岡半兵衛重政により再建されました。

東から入り参拝後、西より出る全国でも珍しい「東西向拝口」の御堂で、観音様の導きにより西方浄土への安楽住生を祈願したものです。

「隠れ三猿」の彫刻は、名匠・左甚五郎作と伝えられます。

また、慶応4年8月、戊辰戦争で野沢に出陣の会津藩主・松平容保公が戦勝祈願に訪れました。